文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	青森県	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	三内丸山遺跡と青森県の伝統文化を活用した地域活性化プロジェクト		【計画の改善時期】 平成 年度
4 実施計画期間	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
<p>青森県は2014年に制定した「青森県基本計画―未来を変える挑戦」のなかで、世界遺産登録を目指す三内丸山遺跡や県内伝統文化を国内外に情報発信し、地域活性化を図ることを謳っている。また、同計画では「2030年における青森県のめざす姿」として「県民は、郷土の歴史・文化に対する誇りや高い意識をもっています。また、芸術文化に触れる機会が増えており、郷土の伝統文化や歴史的な文化遺産が県民共通の財産として継承されています。さらに、三内丸山遺跡に代表される縄文文化の価値が国内外に認識されている青森県をめざしております。」としており、そのための具体的な施策として</p> <p>「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録を目指す取り組みや、文化財の保存、公開などの取り組みを通じて本県の歴史・文化を国内外に強力に発信するほか、伝統文化の鑑賞・体験の機会充実を図ることで、次代へ伝えていく。」としている。</p> <p>そこで本県では、青森県基本計画に基づき平成27年度、平成28年度に実施してきた計画を見直し、平成29年度からは新たに2つの実行委員会による事業を行っている。</p> <p>「事業1」は、「三内丸山遺跡」の活用を中心とし、ガイドの人材育成や伝統文化の鑑賞機会の充実を図る。</p> <p>「事業2」は、青森県の豊かな伝統文化の保存・継承のため、記録作成や民俗芸能の後継者育成を中心とした事業を実施する。</p> <p>○事業1 三内丸山遺跡と青森県の伝統文化を活用した地域活性化プロジェクト（三内丸山遺跡と青森県の伝統文化を活用した地域活性化プロジェクト実行委員会）</p> <p>三内丸山遺跡と青森県の伝統文化など多様で豊かな文化遺産を活用し、ガイド等の人材育成や情報発信、普及啓発等を進め、その波及効果を県域全域に広げ地域活性化につなげるため以下の取り組みを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 三内丸山遺跡と県内文化遺産への来訪を促進するための人材育成事業 <ul style="list-style-type: none"> ●「あおり案内人・養成講座」の開催 青森県への来訪客に対応し、遺跡や縄文に関する基礎的な知識のみならず、縄文文化を基層とする青森県の魅力あふれる文化を交えて発信するための案内人を養成するため研修講座を実施する。 （各年度開催。各講座50名の参加を目標とする。各年度に5回程度開催予定） 三内丸山遺跡や、青森県の文化遺産・地域の伝統芸能の情報発信・普及啓発事業 <ul style="list-style-type: none"> ●「あおり伝統芸能フェスティバル・ワークショップ」の開催 県内各地の伝統芸能を三内丸山遺跡に集結し伝統芸能の上演やワークショップ等を開催する。 （各年度8団体～10団体程度の上演で年度内に1回開催予定） その他青森県の文化遺産の普及啓発と、地域の文化遺産を活かした地域の活性化に資する事業 <ul style="list-style-type: none"> ●各年度の状況により、必要に応じてシンポジウムや企画展等の開催を検討する。 <p>○事業2 青森県歴史文化継承活用事業（青森県歴史文化継承活用委員会）</p> <p>青森県の多様で豊かな文化遺産である伝統文化の保存・継承のため、平成29年度から事業を実施するための専門家や関係者による新たな実行委員会（青森県歴史文化継承活用委員会）を組織し、民俗文化財の保存・継承のための記録作成や後継者養成を中心とした事業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●県内の民俗文化財及び無形民俗文化財の記録作成（報告書・映像）、ワークショップ等の普及啓発の実施。 ●事業で作成する映像記録を活用した無形民俗文化財の実技指導講習会等による後継者養成事業や、用具等整備の実施。 <p>※事業の実施状況に応じて、成果発表の開催も検討</p> <p>○事業3 青森県ヘリテージマネージャー養成事業（一般社団法人青森県建築士会）→申請取り下げ</p> <p>※交付要望においては、ヘリテージマネージャー養成のための講習会を開催する計画であったが、事業者である青森県建築士会の実施体制が整わなかったことから、今年度は計画を取り下げるものである。</p> <p>（実施方法等を検討の上、次年度改めて申請することとしたい。）</p>			
6 実施体制			
<p>青森県が本実施計画に関わる全体の企画・調整や各補助事業に関わる指導を行う。</p> <p>補助事業は次の団体が実施する。</p> <p>○事業1 三内丸山遺跡と青森県の伝統文化を活用した地域活性化プロジェクト実行委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構成団体（青森県、青森県教育委員会、青森県文化財保護審議会、NPO法人三内丸山縄文発信の会、三内丸山応援隊、三内丸山文化観光拠点づくり支援協議会、「青森県の縄文遺跡群」世界遺産をめざす会） <p>○事業2 青森県歴史文化継承活用委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織構成 <ul style="list-style-type: none"> 会長 副会長 委員 委員 事務局長 連絡調整 青森県教育庁文化財保護課 事業実施団体 奥戸春日神社神楽会、奥戸地区山車行事保存会、大間山車行事保存会、大沢獅子舞保存会、平川市連合獅子踊保存会 			

7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成29年度交付決定額： 16,864 千円	平成30年度申請額： 16,787 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
<p>○事業1 三内丸山遺跡と青森県の伝統文化を活用した地域活性化プロジェクト</p> <p>1. 地域の文化遺産人材育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あおり案内人養成講座 この「案内人」が青森の「語り部」となり、来訪客への「あおり」のイメージアップを図ることで地域活性化につなげる。また、若年層を含む県民に対し郷土や青森県の文化遺産への理解と愛着を植え付け、次代への文化遺産の継承の基盤を構築することができる。 <p>2. 地域の文化遺産普及啓発事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あおり伝統芸能フェスティバル（ワークショップ） 県内各地域から複数の伝統芸能の団体を集めフェスティバルを実施することで、伝統芸能の担い手に発表の機会を与え、伝統芸能を保存・継承していくことのモチベーションを高めることができる。また、来場者は鑑賞の機会や体験の機会を得ることで伝統芸能に対する理解を深めることができ、次世代の芸能の担い手になる契機が生まれるほか、郷土への誇りや愛情が培われ、地域の活性化を図ることが期待できる。 また、会場となる三内丸山遺跡が独特の雰囲気醸しだし、県民を含む来訪者が雄大な青森県の歴史と文化遺産に対する感動を深め、文化財を尊重する意識を高めることが期待できる。 <p>○事業2 青森県歴史文化継承活用事業</p> <p>青森県の多様で豊かな文化遺産である伝統文化は後世にきちんと伝えていかなければならないが、このためには伝統文化の保存・継承を担う後継者の養成と記録としての保存・継承がなされることや、継承活動の前提となる用具等の整備が必要となる。</p> <p>後継者養成は直接伝統文化の保存・継承につながり、記録作成は、何らかの事情で伝統文化の継承が一時的に止まったとしても、記録をもとに復元されることとなり、伝統文化の消滅の危機を回避することができる。用具等の整備は、伝統の再確認と継承活動への意欲を喚起する契機となる。また、記録は地域住民の伝統文化の理解を深めるための普及啓発に使われるほか、テキストとして後継者養成にも役立てる効果が得られる。</p>			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：	<p>○事業1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統芸能フェスティバルについては、三内丸山遺跡の魅力発信のため、同時期に、県事業等を三内丸山遺跡で開催することを検討。相乗効果によるフェスティバルの盛り上がりと集客をはかる。 (参考) 平成29年度は来場者に縄文遺跡の価値や多様な魅力に触れてもらうため、県と連携し同時期に行うそれぞれの事業を「さんまるJOMONの日」の取組と位置づけ実施。県事業などで「縄文大祭典」、「縄文ワークショップ」、「さんまるジョモリンピック」などの事業が開催された。 		
事業概要：	<p>○事業2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後継者養成事業については、民俗芸能団体が独自に行っている民間の助成金を活用した取り組みと連携しながら実施する。 ・用具等整備事業については、県の文化財補助事業の補助を活用し行うとともに、後継者養成のための機会として事業を進める。 		
事業概要：			
11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	青森県教育庁文化財保護課		

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 1 :	その他 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 1 :	地域の文化資源関係施設等におけるガイド等の利用者数	関連事業 :		「事業 1」 あおもり案内人・養成講座		
目標値 1 :	【現状値】 平成 29 年度 53,000 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 59,000 人					
設定根拠 1 :	三内丸山遺跡や青森県立郷土館におけるガイド等のサービス利用者数について、5年間で10%増を目指す。					
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
53,000 人	人	人	人	人	人	
0%						
目標区分 2 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 2 :	地域の文化遺産への来場者数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 2 :	地域の文化遺産である三内丸山遺跡への来訪者数	関連事業 :		「事業 1」 あおもり伝統芸能フェスティバル・ワークショップ		
目標値 2 :	【現状値】 平成 29 年度 29 万人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 34 万人					
設定根拠 2 :	5年間で来訪者数10%増を目指す。					
進捗状況 2 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
29 万人	万人	万人	万人	万人	万人	
0%						
目標区分 3 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 3 :	祭礼行事等の保存会会員数、保存団体数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 3 :	補助事業対象保存会の会員数増減率 (対29年度)	関連事業 :		「事業 2」 青森県歴史文化継承活用事業		
目標値 3 :	【現状値】 平成 29 年度 100 % ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 100 %					
設定根拠 3 :	当該保存会の地域住民人口の減少に鑑み現状維持を設定。					
進捗状況 3 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
100 %	%	%	%	%	%	
目標区分 4 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 4 :	その他 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 4 :	補助事業対象地域の映像記録利用回数	関連事業 :		「事業 2」 青森県歴史文化継承活用事業		
目標値 4 :	【現状値】 平成 29 年度 0 回 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 120 回					
設定根拠 4 :	対象保存会における利用から、地域の市民団体、社会教育施設、学校等での利用拡大を見込み設定。					
進捗状況 4 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
0 回	回	回	回	回	回	
0%						

8 (2) 実施事業の概要 別紙

事業①:	あおもり案内人・養成講座	実施団体:	三内丸山遺跡と青森県の伝統文化を活用した地域活性化プロジェクト			
事業区分:	人材育成	事業期間:	平成 29 年度 ~ 平成 33 年度			
事業概要:	<p>三内丸山遺跡をはじめとする青森県への来訪客に対し、遺跡や縄文文化に関する基礎的な知識のみならず、縄文文化を基層とする青森県の魅力あふれる文化を交えて発信するための案内人を養成するための研修講座を実施する。</p> <p>遺跡や縄文文化の知識と「あおもり」の文化をミックスして発信することで、三内丸山遺跡をはじめ青森県への来訪客への「あおもり」に対するイメージの好感度アップが期待できる。また、若年層に対しても地元への関心と誇りを植え付け、次代への文化遺産の継承を図る。</p>					
評価指標区分:	・ボランティアガイド育成講座修了者の後年度活動者数			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標:	養成講座参加者(各年度50名参加×5回=250名)がガイド等の後年度活動を行う割合を指標とする。29年度は参加者の50%以上、5年目の平成33年度は参加者の60%以上を目指す。					
目標値:	【現状値】平成 29 年度 50 % ⇒ 【目標値】平成 33 年度 60 %					
進捗状況:	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
58 %	%	%	%	%	%	
80%						
事業②:	あおもり伝統芸能フェスティバル・ワークショップ	実施団体:	三内丸山遺跡と青森県の伝統文化を活用した地域活性化プロジェクト			
事業区分:	普及啓発	事業期間:	平成 29 年度 ~ 平成 33 年度			
事業概要:	<p>県内各地の伝統芸能を三内丸山遺跡に集結し上演することにより、青森県の芸能の豊穡さが担い手たちの情熱によって観客に大きな感慨を与え、伝統芸能の継承と関心の向上及び歴史への理解が深まる。計画期間内にできるだけ多くの団体による伝統芸能を上演するとともにワークショップを開催する。県内から小中学生を中心に、普段触れる機会の少ない青森県の伝統芸能に自らが参加することで、伝統芸能への興味につなげ、将来の芸能の担い手作りに寄与すると同時に地域の活性化につなげる。</p> <p>青森県の伝統芸能に加え、特別史跡三内丸山遺跡で縄文の息吹に触れることで、文化財を尊重する意識を高めることが期待できる。</p> <p>○県内伝統芸能上演及びワークショップ開催(2日間で開催予定)</p> <p>神楽や獅子踊等できるだけ多くの団体に上演してもらうほか、ワークショップを開催し、芸能団体の指導の下で来場者が伝統芸能に直接触れる機会を設け、伝統文化の鑑賞・体験の機会の充実を図る。</p>					
評価指標区分:	・フェスティバル出演団体の保存会会員数			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標:	フェスティバル出演団体の保存会会員数を指標とし、少子高齢化・後継者不足等の現状を踏まえ、現状維持を目指す。平成29年度の会員数を100%とし、平成33年度の会員数維持を目標とする。					
目標値:	【現状値】平成 29 年度 100 % ⇒ 【目標値】平成 33 年度 100 %					
進捗状況:	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
100 %	%	%	%	%	%	

事業③：	民具の使い方・生活の知恵体験事業	実施団体：	青森県歴史文化継承活用委員会			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 30 年度			
事業概要：	旧小川原湖民俗博物館所蔵の民具資料を活用し、民具の保管方法、使い方や手作業の際の知恵・生活技術などを地元の方々から学び、実際に民具を使ってみる体験イベントを行う。					
評価指標区分：	・その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	旧小川原湖民俗博物館所蔵の民具資料の活用件数					
目標値：	【現状値】 平成 29 年度 1 件 ⇒ 【目標値】 平成 30 年度 10 件					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
1 件	件	件	件	件	件	
0%						
事業④：	青森県無形民俗文化財等保存活用事業	実施団体：	青森県歴史文化継承活用委員会・奥戸春日神社大神楽会			
事業区分：	記録作成	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	民俗芸能の価値への理解・関心を広げるため、映像記録と文字記録(解説)を制作し公開することにより、後継者養成に向けた活用や、継承活動への参加促進に資する。平成30年度は大間町奥戸の大神楽の記録作成を行う。					
評価指標区分：	・記録映像の貸し出し(又は利用)回数等			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	記録映像の公開回数					
目標値：	【現状値】 平成 30 年度 5 回 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 15 回					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
回	回	回	回	回	回	
事業⑤：	青森県無形民俗文化財等保存活用事業	実施団体：	青森県歴史文化継承活用委員会			
事業区分：	記録作成	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	旧小川原湖民俗博物館所蔵民具資料を保管活用するため、それら民具の使用法と手作業の知恵を地元の方に実際に使ってもらい映像記録を制作する。平成30年度は衣食住に関する使用法を記録作成する。					
評価指標区分：	・記録映像の貸し出し(又は利用)回数等			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	記録映像の公開回数					
目標値：	【現状値】 平成 29 年度 0 回 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 25 回					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
0 回	回	回	回	回	回	
0%						

事業⑥：	青森県無形民俗文化財等後継者育成事業	実施団体：	青森県歴史文化継承活用委員会他			
事業区分：	後継者養成	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	県内各地の保存会を対象に、記録作成の成果を公開し、保存会での継承活動の意義などを学識経験者を招いて講話してもらう。また、用具などの整備を機会に学識経験者を招いて講話してもらい、留意事項や継承の意義について理解を深める。					
評価指標区分：	・保存会会員数の変化（維持）			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	保存会の会員数（増減率）					
目標値：	【現状値】 平成 29 年度 100 % ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 100 %					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
100 %	%	%	%	%	%	
事業⑦：	青森県無形民俗文化財等用具等整備事業	実施団体：	青森県歴史文化継承活用委員会			
事業区分：	用具等整備	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	民俗芸能団体が継承活動に意欲的に取り組めるよう、用具等の整備を助成する。また、用具等の整備の機会を活用し、学識経験者による講話や修繕方法等に関する指導を行う。					
評価指標区分：	・保存会会員数の変化（維持）			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	保存会の会員数（増減率）					
目標値：	【現状値】 平成 30 年度 100 % ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 100 %					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
%	%	%	%	%	%	
事業⑧：	歴史民俗継承活動重点地域支援事業	実施団体：	青森県歴史文化継承活用委員会			
事業区分：	その他	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	本補助事業の記録作成に採択された保存会などの取組と、当該民俗芸能などの概要をリーフレットにし、取り組んだ地域を中心に配布して、継承・活用活動への参加者増を図る。					
評価指標区分：	・その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	記録作成に採択された保存会等への新規入会者数					
目標値：	【現状値】 平成 30 年度 5 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 25 人					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	